

2012 年度センター試験 簿記・会計

第 3 問

商品売買業を営む京都商事株式会社（決算は年 1 回、決算日は 3 月 31 日）の決算処理に関する問題。

まず、資料 2・資料 3 の事項の仕訳を行う。

資料 2

(1) 支払家賃と売上の仕訳処理を行った後の現金の帳簿残高は

$$70 - 4 + 23 = \text{¥}89$$

となり、実際残高より ¥1 少ないことが分かる。この ¥1 は雑益として処理をする。

(2) 1 株の帳簿価額が ¥19 である有価証券 5 株を、1 株につき ¥20 で売却したため、

$$5 \times (20 - 19) = \text{¥}5$$

の利益が生じる。この利益は有価証券売却益で処理をする。

(3) 二重記帳の修正はその仕訳を相殺すればよい。

以上から資料 2 (1) ～ (3) の仕訳は以下の通りになる。

(1)	支払家賃	4	現金	4
	現金	23	売上	23
	現金	1	雑益	1
(2)	当座預金	5	有価証券	5
			売買益	
(3)	支払手形	10	買掛金	10

資料 3

(1) 繰越商品の決算整理の仕訳は以下の通り

仕入	165	繰越商品	165
繰越商品	125	仕入	125

(2) 資料 1 から貸倒引当金の見積額は

$$(130 + 270) \times \frac{3}{100} = ¥12$$

また資料 1 の貸倒引当金の額は ¥15 であるため、差額補充法により決算では ¥15－¥12＝¥3 を貸倒引当金戻入勘定で処理をする。

貸倒引当金 3 貸倒引当金戻入 3

(3) 備品の 1 年ごとの減価償却費は $¥180 \times 0.9 \div 6 = ¥27$ となるため、減価償却の処理は以下の通り

減価償却費 27 備品減価償却累計額 27

(4) 借入金の一年間の利息は $¥200 \times 4 \div 100 = ¥8$ である。このうち×5 年 1 月～3 月の 3 か月分 $¥8 \times 3 \div 12 = ¥2$ は未払いであるため、未払利息として処理をする。

支払利息 2 未払利息 2

(5) 所有している社債は以下のものである。

発行日 ×1 年 4 月 1 日
 額面総額 ¥200
 払込金額 @ ¥97
 利率 年 5 %
 利払い日 9 月末日と 3 月末日
 償還期間 6 年間

毎年の社債利息は $¥200 \times 5 \div 100 = ¥10$ 。よって各利払い日に支払われる金額は ¥5。また額面総額と払込金額の差額は $¥200 - ¥97 \times 2 = ¥6$ 。償還期間は 6 年であるため、毎年の償還額は ¥1 である。以上から決算整理仕訳は以下の通りになる。

社債利息 5 未払利息 5
 社債利息 1 社 債 1

(6) 資料 1 の保険料の金額は以下の 2 つの期間の保険料の合計である。

- (a) × 4 年 4 月～9 月の保険料 (× 4 年 4 月の前払保険料の再振替)
- (b) × 4 年 1 0 月～× 5 年 9 月の保険料 (× 4 年 1 0 月の前払保険料)

(a) の期間の金額は $¥2 \times 6 = ¥12$ であるため (b) の期間の保険料の金額は $¥48 - ¥12 = ¥36$. このことから (b) の 1 か月あたりの保険料は $¥36 / 12 = ¥3$ である。

(b) の期間のうち × 5 年 4 月～× 5 年 9 月の 6 か月の保険料 $¥3 \times 6 = ¥18$ を前払保険料に繰り延べる。

前払保険料 18 保険料 18

(7) 法人税等はすでに仮払が行われているため、差額分を未払法人税等として計上する。

法人税等 20 仮払法人税等 12
未払法人税等 8

問 1

残高試算表の社債利息は今期の支払分である。9 月末と 3 月末にすでに支払いがされているため、記入される金額は 1 年分の社債利息 **¥10** である。

残高試算表の社債の評価価額は前期末の時点での価額である。社債は発行時の× 1 年 4 月 1 日における評価価額は **¥194** であった。この後毎年 **¥1** を償還し、前期末で 3 年が経過したため、評価価額は $¥194 + ¥1 \times 3 = ¥197$ となる。

残高試算表の仕入勘定の金額は **¥1,885**. この金額に繰越商品の決算処理の仕訳分を計算する。

$$¥1,885 + ¥165 - ¥125 = ¥1.925$$

借入金の 1 年分の支払利息 **¥8** のうち 3 か月分 **¥2** は未払利息として繰り延べたため、残りの $¥8 - ¥2 = ¥6$ が損益勘定に記入される。

繰越利益剰余金は資料 1 では **¥75**、資料 5 では **¥22** となっているため、資料 4 の損益勘定での金額は差額である $¥75 - ¥22 = ¥53$ が記入される。

資料 1 の空欄を埋めていく。

支払利息は借入金の利息。借入金は昨年の×4年7月1日に借りたもの。決算整理前の時点で支払利息として計上しているものは×4年7月～12月までの6か月間のみである。よって支払利息の勘定には ¥4 が記入される。

備品は2年前の×3年4月1日に取得したもの。決算整理前の時点で計上されている減価償却費は×3年4月～×4年3月の1年分のみである。よって備品減価償却費累計額の勘定には ¥27 が記入される。

以上から資料 1 の残高試算表は以下の通りになる。

借	方	金額	貸	方	金額
現	金	70	支 払 手 形		50
当 座 預 金		280	買 掛 金		130
受 取 手 形		130	借 入 金		200
売 掛 金		270	貸 倒 引 当 金		15
有 価 証 券		190	備品減価償却累計額		(27)
繰 越 商 品		165	社 債		197
仮払法人税等		12	資 本 金		550
備 品		180	資 本 準 備 金		16
繰越利益剰余金		75	利 益 準 備 金		40
仕 入		1885	別 途 積 立 金		50
給 料		205	売 上		2325
支 払 家 賃		92	受 取 手 数 料		16
保 険 料		48			
支 払 利 息		(4)			
社 債 利 息		10			
		3616			3616

問 2

資料 2 の (1) の処理から「シ・ス」は**雑益勘定 ¥1** で処理をする。

資料 2 の (2) の処理から「セ・ソ」は**有価証券売却益勘定 ¥5** で処理をする。

資料 3 の (2) の処理から「タ・チ」は**貸倒引当金戻入勘定 ¥3** で処理をする。

資料 4 の損益勘定を完成させる。

支払家賃：資料 2 の (1) の処理も含めて $¥92 + ¥4 = ¥96$

保険料：今期の保険料は ¥48. 資料3の(6)より、このうち ¥18 は前払保険料に繰り延べているため、 $¥48 - ¥18 = ¥30$ を損益勘定に計上する。

減価償却費：資料3の(3)の処理から ¥27 を計上する。

社債利息：資料3の(5)の処理から $¥10 + ¥1 = ¥11$ を計上する。

以上から損益勘定は以下の通りになる。

損			益		
仕	入	1925	売	上	2348
給	料	205	受	取	手
支	払	家	雑	益	1
保	險	料	有	価	証
減	価	償	却	益	5
支	払	利	貸	倒	引
社	債	利	当	金	戻
法	人	税	入		3
繰	越	利			
益	剰	余			
金		53			
		2373			2373

問3

資料3の(6)より、前払保険料は ¥18

資料2の(1)より、買掛金は $¥130 + ¥10 = ¥140$

備品は×3年に取得したため、2年分の減価償却費を計上している。よって
減価償却累計額は $2 \times ¥27 = ¥54$

法人税等は仮払法人税が計上されているため、 $¥20 - ¥12 = ¥8$

資料3の繰越試算表を完成させる。

現金は資料2の(1)より ¥90.

繰越商品は資料3の(1)より ¥125

支払手形は資料2の(3)より ¥10 の減少があるため $¥50 - ¥10 = ¥40$.

貸倒引当金は資料3の(2)より ¥12

社債は資料3の(5)より今期の償還の金額 ¥1 を加えて $¥197 + ¥1 = ¥198$

未払利息は資料3の(4)より ¥2.

これらと問3の解答を合わせると繰越試算表は以下の通りになる。

借	方	金額	貸	方	金額
現	金	(90)	支 払 手 形		(40)
当 座 預 金		380	買 掛 金		140
受 取 手 形		130	借 入 金		200
売 掛 金		270	貸 倒 引 当 金		(12)
有 価 証 券		95	備品減価償却累計額		54
繰 越 商 品		(125)	社 債		(198)
備 品		180	未 払 利 息		(2)
保 険 料		18	未 払 法 人 税 等		8
繰越利益剰余金		22	資 本 金		550
			資 本 準 備 金		16
			利 益 準 備 金		40
			別 途 積 立 金		50
		(1310)			(1310)

問4

繰越利益剰余金の補填のため、別途積立金を取り崩す時の仕訳は以下の通りになる。

別途積立金 22 繰越利益剰余金 22

問5

あらたに株式10株を1株当たり ¥10 で発行したため、払込金額の総額は $¥10 \times 10 = ¥100$ である。1株につき ¥4 は資本金に計上しないため、この金額は「資本準備金」に計上する。以上から資本準備金、資本金の総額は以下の通りになる。

資本準備金の総額 = $¥4 \times 10 = ¥40$

資本金の総額 = $(¥10 - ¥4) \times 10 = ¥60$

また、株式を追加発行したため、発行に要した費用は「株式交付費」で計上する。以上より仕訳は以下のとおりである。

当座預金	100	資本金	60
		資本準備金	40
株式交付費	2	当座預金	2

第3問の解答

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ
1	0	1	9	7	9	2	5	6	5	3	2	1	8	5
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
4	3	1	8	4	0	5	4	8	4	5	3	4	1	2